

はじめに

近年、本邦をとりまく医学教育環境は大きく変化し、それに伴い教員・指導医の医学教育に関係する対応も今まで以上に必要になり、FDの重要性も増加している。

卒前医学教育の変化では2010年（平成22年）にモデル・コア・カリキュラムの改訂が行われた。また、2010年に米国やカナダ以外の医学部出身者の米国医師国家試験（USMLE: United States Medical Licensing Examination）の受験資格を審査するECFMG（Education Commission for Foreign Medical Graduates）が、米国医科大学協会（AAMC: Association of American Medical Colleges）、または世界医学教育連盟（WFME: World Federation for Medical Education）の基準で国際的認証を受けた医学部卒業生以外の申請を2023年以降は認めないという発表を受け、本邦の医学部教育も世界標準を満たすべく改訂したり、認証評価を受ける動きが出てきている。

また、卒後医学教育では、医師臨床研修制度の見直しで2010年から実施され、現在も2015年の改訂に向けての作業が医道審議会医師分科会医師臨床研修部会で行われている。

本稿では、これらの流れを踏まえ、医学教育に関わるFDについて述べる。

1. 本邦のFDの状況

卒前医学教育の分野では全国の医学部、医科大学でFDはさらに活発になっている。その開催回数を見てみると、2012年度の調査報告¹⁾によれば、FDを開催していない医学部は皆無になり、2008年度調査²⁾では、5回以上FDを行っている

医学部は10校であったのに対し、2012年度調査では24校に増加し、最多の医科大学では19回のFDを開催していた。そのテーマは図1のように、PBL/チュートリアルに関するFDが最も多く、ついで医学教育全般、CBT・試験問題作成、臨床実習・クリニカル・クラークシップの順であった。その内容は教員の教育に関わる種々の項目が挙げられ、参加者のアンケート結果ではFDの評価が高かった。一方、開催時間は多忙な通常業務や諸般の事情のために2時間以内のFDが半数近くを占め、比較的短時間でFDが行われている状況であった。

また、卒後臨床研修では指導医の要件が、2009年4月1日から7年以上の臨床経験を有し、指導医講習会を受講していることと規定され、今まで以上に指導医講習会の受講者が増加した。その結果、現在までの指導医講習会受講者は40,000名を超えた。さらに、2004年（平成16年3月18日）に発効された指導医講習会開催指針³⁾の見直しの必要性も検討されるようになっていく。指導医講習会開催指針には種々の規定が明記されている。その指針には開催期間は、原則として、2泊3日以上で開催され、開催期間が1泊2日である場合においても、実質的な講習時間の合計は、16時間以上であることやワークショップ（参加者主体の体験型研修）形式で実施され、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）や、いくつかの提示されたテーマが含まれることが条件として上げられている。現在、厚生労働省が中心になって指導医講習会受講者から指導医講習会のプログラムに関するアンケートを集積しており、その結果が待たれる。

2. ECFMGによる米国医師国家試験受験資格の公表

米国・カナダ以外の医学部出身者を対象とした

^{*1} Faculty Development

^{*2} Hiroaki Takahashi 岩手県立中央病院医療研修部

米国医師国家試験(USMLE)の受験資格を審査する ECFMG が、米国医科大学協会 (AAMC)、または世界医学教育連盟(WFME)の基準⁵⁾で国際的認証を受けた医学部卒業生以外の USMLE の受験申請を 2023 年以降は認めないという発表⁴⁾を 2010 年に行った。本邦では USMLE を受験する医学生は卒業生の 1% に満たない。しかし ECFMG による発表は、WFME の基準が医学教育の国際標準であるという認識を加速させ、WFME グローバルスタンダードへの対応を実践・検討し、認証評価を受けるための準備を行う医学部、医科大学が増えてきている。

WFME グローバルスタンダードには卒前医学教育に相当する Basic Medical Education, 卒後医学教育 Postgraduate Medical Education, そして医師の能力開発 Continuing Professional Development of Medical Doctors が記載されている。WFME グローバルスタンダードの内容は 9 つの領域とその下位領域で構成されている。詳細は国際認証の章で述べられると思うが、医学教育の質的向上の水準として、教員の領域では教員の職種によるカリキュラム毎の学生と教員の比率に基づいた任用指針の検討や教員としての研修・自

己開発・教育への報奨の必要性が述べられている。また、教育プログラムやプログラム評価の領域も明示されており、WFME グローバルスタンダードに則った FD を開催する必要性が高くなっている。

3. 医学教育者のためのワークショップ

毎年 1 回、12 月に開催している医学教育者のためのワークショップ(富士研 WS)は種々の経緯を経て、現在は文部科学省、厚生労働省の共催で日本医学教育学会が主催し、FD 委員会がその立案・運営を行っている。2013 年に第 40 回を迎えた富士研 WS には全国の医学部から 20 名、臨床研修病院等から 20 名の計 40 名の医学教育機関等で指導的立場にある参加者を募り、4 泊 5 日の期間で FD を企画・運営する能力の向上を目的として開催している。近年は日本歯科医学教育学会と日本薬学教育委員会からも 1 名ずつの参加者推薦を得て、他学会との交流を図りながら開催している。

2009 年から第 16 期 FD 委員会が活動を開始し、その年の富士研 WS から前半にカリキュラム・プランニングを行い、後半に医学教育を取り

1 PBL／チュートリアル教育
2 CBT、試験問題作成
3 臨床研修・医師養成・指導医養成
4 臨床実習、クリニカル・クラークシップ
5 カリキュラム関連
6 OSCE
7 医学教育全般
8 生命倫理
9 地域医療教育関連
10 授業方法、講義方法
11 国際交流・英語教育
12 人間性・教養教育
13 教育評価
14 学生の評価法
15 シミュレーション教育
16 e-ラーニング
17 基礎医学教育・研究
18 入学試験、面接
19 新規採用・昇任教員研修
20 その他

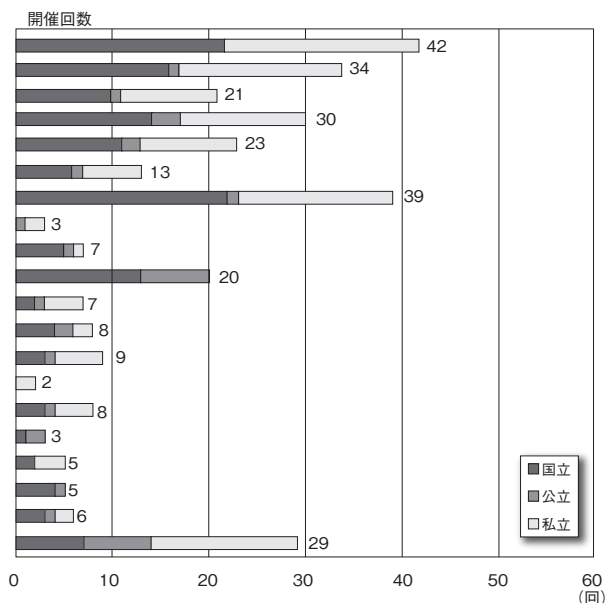


図 1 FD テーマ別開催数 (文献¹⁾より)

表 1 全国医学部における学内研修会 (FD) の実態調査報告 (文献¹⁾より)

FD 開催回数 (医学部数)		FD 開催時間	
0 回	0 校	2 時間以内	152 回
1 回	23 校	3 時間以内	36 回
2 回	8 校	5 時間以内	35 回
3 回	13 校	7 時間以内	25 回
4 回	12 校	10 時間以内	28 回
5 回以上	24 校	10 時間以上	38 回

巻く話題や新しい流れを共有し、討議したプロダクトを発表する形式が定着した。WS の前半のカリキュラム・プランニングは、今まで 40 年近くに渡って定着してきた GIO, SBOs 立案に基づくプロセス重視型のプログラムを作成するスタイルである。一方、後半のテーマでは 2010 年は専門医制度の在り方が医学教育を取り巻く大きな話題の一つになっていたため、専門医制度の現状と将来展望について討議した。2011 年にはコーチングやナラティブを学生指導や教員の FD に生かす手法、2012 年からは、今までのプロセス重視型のカリキュラム・プランニングを行う前半と対照させて、アウトカム基盤型教育 (OBE) による教育プログラム立案を検討・経験する時間とし、両者の異同を検討している。

全国規模で卒前・卒後医学教育に関わる教育者・指導者が一同に会して、医学教育の現在・過去・未来を討議する機会は少なく、医学教育の流れを把握しながら、参加者による貴重なプロダクトを医学教育誌や日本医学教育学会ホームページに掲載したり、提言として公表している。

■文 献

- 1) 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・カリキュ

ラム調査ワーキンググループ。全国医学部、医学系大学院における Faculty Development(FD) の実態調査報告。平成 24 年度 (2012 年調査)。奈良信雄編集, 全国医学部長病院長会議 (AJMC), 東京, 2013。

- 2) 全国医学部長病院長会議医学教育委員会・FD 専門委員会。全国医学部、医学系大学院における Faculty Development(FD) の実態調査報告。2008 年度調査。奈良信雄編集, 全国医学部長病院長会議 (AJMC), 東京, 2009。
- 3) 医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針について。医政発第 0318008 号, 平成 16 年 3 月 18 日。
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/rinsyo/hourei/040318.html>, 2004。
- 4) ECFMG to Require Medical School Accreditation for International Medical School Graduates Seeking Certification Beginning in 2023。
<http://www.ecfmg.org/forms/9212010.press.release.pdf>, 2010。
- 5) de V van Niekerk JP, Christensen L, Karle H, Lindgren S, Nystrup J. WFME Global Standards in Medical Education: status and perspectives following the 2003 WFME World Conference. *Med Educ* 2003; **37**: 1050–4。